

共同利用・共同研究に関わる各種お知らせ

共同研究専門委員会よりお知らせ

共同利用は大学共同利用機関である分子科学研究所にとって基幹的なアクティビティである。昨今のコロナ禍において遅滞を余儀なくされてきた共同利用も、2023年の利用申請（2024年実施課題）からは従前のような岡崎 on-site での実施が可能となりつつある。また2022年度には、それまでのナノテクプラットフォーム事業を継続・刷新する形でマテリアル先端リサーチインフラ事業（Advanced Research Infrastructure for Materials and Nanotechnology：略称 ARIM）を展開しつつある。コロナ禍においては on-web による研究会実施のプラットフォームの提供も定着したが、一方で on-site での研究会の良さも改めて認識され2024年には件数こそ多くはないが分子科学研究の新たな切り口を示すような実りある研究会が提案実施されている。しかしそれら高質な共同利用の展開はあるものの、残念ながら共同利用件数そのものは減少しつつあるのが現状である。これは執筆者の私見ではあるが各自の研究分野を長年にわたって先導してきた複数の教授が定年に差し掛かりつつあること（執筆者も当事者である）が関係しているように感じる。一方、その後任人事を含めて、若い世代の准教授人事なども進みつつある。今まさに、そして次年度以降にも芽を出すであろう新しい分子科学研究の萌芽が、協力研究や分子研研究会の起爆剤になることに大いに期待している。

共同利用研究の実施状況（採択件数）について

種 別	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (10月31日現在)
課題研究	4	2	2	2	4	2	1
協力研究	45	37	53	47	47	33	38
協力研究（マテリアル）(注3)	81	69	44	66	38	28	32
協力研究(NMRプラットフォーム)(注4)	-	-	-	3	0	-	-
分子研研究会	10	7	4	4	5	6	3
若手研究活動支援	1	2	1	2	1	0	1
岡崎コンファレンス	1	2	0	0	0	0	0
計	142	119	104	124	95	69	75

(注1) 課題研究・協力研究の通年課題は前期と後期の2期分として、1課題を2として年度計に表す。

(注2) 新型コロナウイルスの影響により研究期間を延長した前期課題は後期の件数に計上しない。

(注3) 2021年度まで「協力研究（ナノテクノロジープラットフォーム）」の件数、2022年度以降は「協力研究（マテリアル先端リサーチインフラ）」の件数。

(注4) 協力研究（NMRプラットフォーム）は2021年7月1日から2022年3月31日まで実施。

分子研研究会

開 催 日 時	研 究 会 名	提 案 代 表 者	参加人数
2024年10月30日～31日	合成化学 2.0: 研究手法の複合化による合成化学の新潮流をめざして	榎山 儀恵 (分子科学研究所)	32名
2024年12月17日～18日	複雑系へのアプローチ～物質の複雑性をどこまで予測できるのか？	北田 敦 (東京大学)	20名